

君津地域水稻情報 「あぜみち第1報」

平成 25 年 6 月 4 日

君津農業事務所 改良普及課

電話 0438-23-0299

F A X 0438-23-6698

ホームページ <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-kimitsu/>

- ★ 生育は低温の影響から回復傾向
- ★ 草丈、茎数、葉色は平年並み
- ★ 中干しは茎数が確保されたら早めに

1 君津地域の生育概況

4月20日頃の低温によりその頃に植え付けた圃場で生育の遅れが見られましたが、5月中旬以降の安定した天候により、順調に回復しています。すでに茎数が確保されて、中干し開始適期のほ場もあります。また、早生・中生・晩生品種の全てで葉色は平年並みにあるため、窒素の追肥を行う必要はありません。倒伏の原因となるため、窒素の追肥は行わないようにしましょう。

現在の生育状況は、次のとおりです。

- ① 葉令は「ふさこがね」では、やや早くなっています。
「ふさおとめ」「コシヒカリ（君津市）」「コシヒカリ（富津市）」では、平年並みです。
- ② 草丈は平年並みです。
- ③ 茎数は平年並み～やや多くなっています。
- ④ 葉色は平年並みです。

2 県調査ほの調査結果（5月31日）

品種	年	田植え日	葉令	草丈(cm)	茎数(/株)	茎数 (/m ²)	単葉葉色
ふさおとめ (袖ヶ浦市)	25	4/18	9.2	31.5	20.5	314	46.7
	平年	4/15	8.9	33.7	23.9	356	45.9
	平年比	+3	+0.3	-2.2	-3.4	-42	+0.8
ふさこがね (君津市)	25	4/22	8.8	30.2	26.5	501	40.8
	平年	4/19	8.0	29.8	18.7	363	45.8
	平年比	+3	+0.8	+0.4	+7.8	+38	-5.0
コシヒカリ (君津市)	25	4/24	7.5	37.9	27.3	502	42.1
	平年	4/20	7.9	36.4	23.4	449	43.4
	平年比	+4	-0.4	+1.5	+3.9	+53	-1.3
コシヒカリ (君津市) (一発肥料)	25	5/2	7.5	29.2	18.4	280	39.8
コシヒカリ (一発肥料) (富津市)	25	4/19	7.7	38.4	27.1	466	41.5
	平年	4/21	7.6	36.0	20.3	360	42.3
	平年比	-2	+0.1	+2.4	+6.8	+106	-0.8

※平年値は過去5か年（2008～2012年）平均値。ただし、君津市のコシヒカリ一発肥料のほ場は25年から調査を始めたため、24年及び平年値はなし。

3 これからの管理のポイント

① 茎数に応じて中干しに入りましょう

中干しには分げつを抑制し、根の生育を良くする効果があります。平年よりも早い梅雨入りで田の水が切れにくくなりますが、茎数が多過ぎると倒伏や玄米品質低下（乳白米の発生等）の原因となりやすく、注意が必要です。

また、米のカドミウム含量が 0.4ppm を超える米は、食品として販売ができません。カドミウム含量を低減させるためには、出穂前後（出穂前 3 週間、出穂後 2 週間）の湛水管理が重要となります。出穂前後に湛水管理を行っても収穫作業に支障がでないように、幼穂形成期に入るまでに中干しを行い、田面を固めておく必要があります。

下表の目標茎数が確保されたら、速やかに中干しを始めましょう。

中干しは田面に小さな亀裂が入り、田面を歩いても長靴が沈まない程度まで行います。中干しが強すぎると田面に大きな亀裂が入ってしまい、根が切れてしまったり、その後の水持ちが悪くなったりしますのでご注意ください。

中干しを終えたら、かんがい水が田面全体に行き渡る程度の浅水とし、なくなれば水を入れる間断かんがいを行います。

表 品種別の中干し開始時期の目安

品種	植付時期	中干し開始目標茎数(本/㎡)		
		砂質	壤質	粘質
ふさおとめ	4月20日	480 (27本)	480 (27本)	440 (24本)
ふさこがね	4月20日	—	360 (20本)	—
コシヒカリ	4月20日	320 (18本)	310 (17本)	300 (16本)
	5月1日			

※ () 内は 60 株/坪植えの時の 1 株当たり茎数の目安

② 「補植苗」の残りは早く片付けましょう

田のすみにおいてある補植用の置き苗を残しておく、いもち病等の病気の発生源となりますので、早めに片付けましょう。

③ 窒素の中間追肥は行わない

生育が遅れているように見えても、窒素成分の入った中間追肥は倒伏を招く心配がありますので、行わないようにしましょう。田植え時期の遅れ等で茎数確保が遅れている場合は、浅水管理をして地温を高め、茎数確保に努めましょう。

今後、葉色が低下した場合も窒素成分を含まないケイ酸質肥料等を施用します。また、加里肥料は放射性セシウムの吸収抑制にも有効です（次ページ参照）。

④ 「ふさおとめ」の幼穂形成期予測

4月20日植えの「ふさおとめ」は、6月19日頃から幼穂形成期（幼穂長 1 mm）に入る見込みです。幼穂形成期から 1 週間後の 6月26日頃から幼穂長が 1cm となり、穂肥の適期となりますので、幼穂長を確認しましょう。

適正な施肥で健全な稲の栽培に取り組みましょう

～加里を補い、放射性セシウムの吸収抑制を図りましょう～

○窒素、リン酸、加里は稲の生育に重要な肥料成分です。

しかし、近年、加里の土壌中成分量が不足している例が見受けられます。加里を補い、健全な稲の育成に努めましょう。

中間追肥での加里施用は、米の放射性セシウム吸収抑制対策にも効果的です。

<ポイント> 加里肥料を適正量まで施用しましょう！

○県の加里の施用基準量は、基肥 6～8kg/10a、穂肥 1～3kg/10a です。

加里を施用することによって、放射性セシウムの稲への吸収を抑制することができます。
なお、倒伏を防ぐため、窒素は適正量とします。

特に土壌中の加里含量が少ないことが予想される以下の水田では、穂肥より効果の高い中間追肥で加里施用を行いましょう。

- ①倒伏を回避するため、基肥の施用量を控えた水田
- ②一発肥料のみの施用で穂肥分の加里が不足している水田
- ③耕畜連携等により水田から稲わらを持ち出し、堆肥を入れなかった水田
- ④土壌に含まれる加里が少ないと思われる（砂質）水田

加里肥料の施用量

稲は生育期間を通して、10kg/10a 程度の加里を必要としています。
不足分の加里成分を適量中間追肥してください。

例1) 一発肥料のみ施用している場合

穂肥分の加里成分 (3kg/10a) を補います。

成分から換算すると ・塩化加里 : 5kg/10a 又は
・ケイ酸加里 : 15kg/10a となります。

例2) 水田から稲わらを持ち出している場合

稲わら分の加里成分 (9kg/10a) を補います。

成分から換算すると ・塩化加里 : 15kg/10a 又は
・ケイ酸加里 : 45kg/10a となります。

※塩化加里の方が即効性があります。

※稲の倒伏を防ぐため、窒素成分を含まない加里肥料を施用します。